平成26年10月8日(水)

武蔵野市 環境部環境政策課 森本章稔

「武蔵野市が取り組む エネルギー施策について」

1. 武蔵野市の概況

人口構成·土地利用状況



面積:10.73km

(東西6.4km 南北3.1km)

地形:平坦

人口:142,097人 世帯数:73,932世帯 世帯あたり人口:1.92人

人口密度:13,243人/km2

(埼玉県蕨市に次いで全国2位)

(平成26年9月1日現在)

昼夜間人口 110.5%

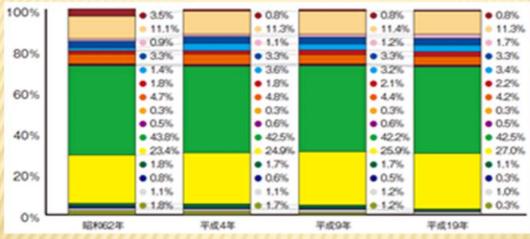
一般会計予算約600億円

(特別会計約900億円)

住宅数:76,380戸(平成20年)

共同住宅 約73% 一戸建て 約24%

武蔵野市の地目別面積





武蔵野市の地目別面積

項目	面積(m²)
畑	340,626
山林	308
宅地	7,526,869
雑種地	224,428
その他(道路、水道用地、公園等)	2,128,300
合計	10,220,531

出典:武蔵野市「2012年版市勢統計」



武蔵野市の地目別面積 出典:武蔵野市「2012年版市勢統計」

2. 武蔵野市の環境施策について

5

武蔵野市のこれまでの取組み

〇取組み(エネルギー関連)

- * ISO14001の認証取得
- * 環境配慮設備設置に対しての補助制度
- × 公共施設への太陽光発電システム等設置
- × 公共施設のエネルギー融通
- × 公共施設のエネルギー使用量の見える化
- × むさしの環境フェスタ等の環境啓発事業
- × 緑・水循環・ごみ減量等の推進
- * まちづくり条例における事業者協力制度





等々

武蔵野市の環境についての計画

武蔵野市第五期長期計画(平成24年4月)

- 環境・エネルギー関連の施策・事業(主なもの)
 - 環境負荷低減施策の推進:都市基盤における環境負荷低 減の推進、低炭素社会に向けた施策の推進
 - 循環型社会システムづくりの推進:新クリーンセンター整備と環境・エネルギー関連の事業展開(主なもの) 安全で効率的なごみ処理の推進、ごみ資源化・エネルギー化 の推進など
 - 「緑」を基軸としたまちづくりの推進:生物多様性保全、緑地 整備・拡充など

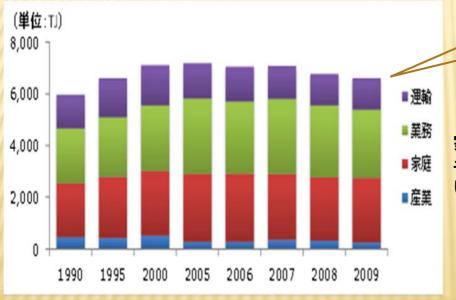
第三期武蔵野市環境基本計画(平成23年4月)

- 目指す環境像: 『みんなでめざそう・エコシティむさしの』
- 環境像の実現に向けた道すじ
 - 地球温暖化防止のために、市域の温室効果ガス排出量の大幅な削減を目指す
 - 生物多様性の保全に配慮した生活・暮らしを営み、市の自然を守り、育てる
- - しくみづくり:環境教育・環境学習の推進
 - ライフスタイル: 太陽光発電等の導入および家庭向け補助、省エネ機器 の導入、ごみ資源・エネルギー化検討
 - 緑と水:緑化推進、カーボンオフセット
 - 道路交通:公共交通総合連携、自転車利用促進、パークアンドバスライド
 - 景観・まちづくり:公共施設改修、環境配慮・性能を評価したまちづくり
 - 健康・安全:安全・安心な住まいづくり

武蔵野市のこれからの取組み

市内のエネルギー消費量

武蔵野市のエネルギー消費量の割合



割合についてはあまり 大きな変化はない

家庭部門と業務部門でエネル ギー消費量の約8割を占めて いる。

出典:オール東京62市区町村共同事業「みどり東京・温暖化防止プロジェクト」(平成24年3月)をも とに作成

(

本市で導入可能な再生可能エネルギーの検討

適用技術	電力	熱	利用可能性	武蔵野市内での 利用可能性
太陽光発電 太陽熱利用	0		大	住宅・建築物屋上 に設置
廃棄物(ごみ)	0	0		クリーンセンターで実施
温度差·地中熱利用				地中熱:可能性あり
バイオマス(主に木質)	0	0		市外からの搬入によって利用可能 (他地域との連携が必要)
雪氷熱利用		0		
小水力発電	0			水量・落差なく困難
風力発電	0			風速・設置場所の確保困難
			小小	

本市におけるエネルギー活用

武蔵野市が取組みを行う 目的 (視点)

エネルギー 消費量削減

温室効果ガス削減

エネルギー エネルギー供給源の コストの削減 多角化とリスク管理 武蔵野市が直面する課題

民生部門の

エネルギー消費

防災·非常時 対策 住宅地・商業地でのヒートアイランド現象

新たなエネルギー活用 創工ネ 省エネ 蓄エネ 関連施策

低環境負荷社会の実現

消費型都市から 低炭素型都市への変貌

- ・エネルギー自給率の向上・エネルギー消費量の削減
- 緑あふれる快適な 都市環境の創出
- ・ヒートアイランド現象の抑制
- ・緑の保全・創出

災害に強く、安全で安心 できる住みやすいまち

・安全なエネルギー源の確保

武蔵野市

- ・公共施設への率先的な設備導入
- ・産学官連携による研究
- 導入支援施策の検討
- ・市民や事業者への普及啓発

連携

市民·事業者

- ・創エネ・省エネ機器導入
- ・環境活動への参加
- ・他の主体との積極的な連携

武蔵野市を3エリアに分ける



市内を3エリアに分けて施策を展開



中期

■ 長期

公共施設が 多い地域 公共施設における 導入モデルの構築

公共施設における導入の推進

法的規制や技術面の課題の具体化、費用対効果の評価

住宅が多い 地域 各戸での導入推進 "見える化"の推進

> 集合住宅、既存住宅における モデルの確立、導入

各事業所での導入推進 "見える化"の推進

まちづくりと連動した展開

スマートシティ化の実現へ

商業施設が 多い地域 (3駅周辺)

13

エネルギー利用の効率化1



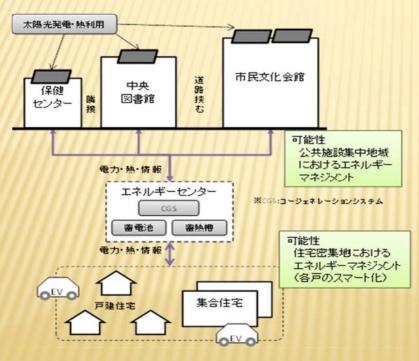






エネルギー利用の効率化2

○導入モデル・市民文化会館

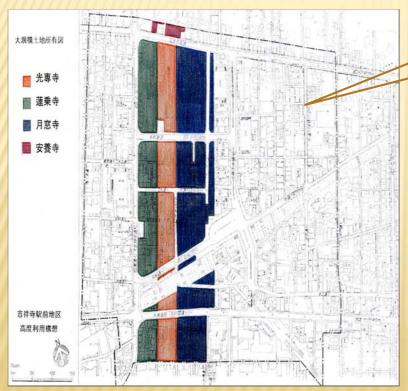






エネルギーの創出・効率化の課題

例)吉祥寺駅付近



- ・お寺が大地主
- ・条例による影響が 個別に働かない
- ・地権者との協力
- 環境啓発意識の増進
- 経済的なメリット
- インフラ整備
- •スマートメーター普及

etc

市内大学との連携



理工学部との協働プロジェクト として実施! 大学で環境施策について講義を 行いました。

成蹊大学 新6号館に設置された 先進的な環境配慮設備の効果を共同研究

- ・まちづくり条例への活用
 - 補助金の資料



ご清聴ありがとうございました。



